
 **適期内に麦の播種を行いましょう！**

 **麦踏等の基本作業を行い、生育を調整しましょう！**

今年も麦類の播種時期となりました。昨年産の結果を踏まえ、以下の点に留意して準備を進めましょう。

1 今後の天気

関東甲信地方1か月予報(令和3年 10 月 28 日気象庁発表)では、気温は平年並・平年より高くなる確率はそれぞれ 40%、降水量は平年より多くなる確率 40%です。10 月 30 日以降は晴れの日が少ない予報のため、下記のこと注意到意し、播種作業、初期生育管理を行いましょ。

2 今後の作業・管理

(1) 播種

県北の播種適期は、11月1日～15日です！

- ◇ 年内に葉齢3葉程度(播種後の積算気温約 300℃)を確保できる時期に播種しましょう。
- ◇ 関東甲信地方の長期予報(3 ヶ月予報)では、平年と同様に晴れの日が多くなる見込みです。早めに計画を立て、適期内に播種を終わらせましょ。

(2) 踏圧

麦の生育を調整する重要な技術であり、その効果は下記のとおりです。年内最低1回、年明け～茎立期直前に必ず2回実施しましょ。

- ① 地上部の過剰生育を抑制しながら、分げつを旺盛にし、根張りを良くし、また茎葉汁液濃度を高めて耐寒性を増大させる。根の起上りを減らし、凍上害を防止する。
- ② 年明け～茎立期直前(3月上旬)の実施は、暖冬年での茎立ちの早期化を抑え、春先の低温による幼穂凍死を回避する効果が期待できる。

3 雑草防除

難防除雑草は、初期発生で防除しないと後々繁茂し、作物の大幅な減収や蛋白質含量の低下を引き起こします。麦の高品質、安定生産を保つためにも、以下のとおり早期雑草防除を徹底しましょう！

<防除のポイント>

- ◇ 播種前に、非選択性除草剤で出芽した雑草個体を防除し、播種後にも各種発生雑草に対応した除草剤を散布！

～代表的な雑草対策～

① スズメノテッポウ

- ・ 水田裏作麦の主要な強害雑草で、一部の除草剤に対して薬剤抵抗性を獲得している。
- ・ 抵抗性スズメノテッポウに有効とされる除草剤(ボクサー、ムギレンジャー乳剤、バンバン乳剤など)への切替え。
- ・ 播種前に、非選択性除草剤で出芽した雑草個体を防除し、播種後に上記の対策除草剤を散布する。
- ・ 播種する際は、土壌の下層にある雑草種子を表層に移動させないように注意する(浅耕播種、不耕起播種)。



② ヤエムグラ

アカネ科の越冬草で、繁茂すると減収だけでなく、麦の倒伏や農機への絡まりによる作業効率低下の要因となる。

<対策>

- ・ 広葉雑草対象の茎葉処理剤を散布する。特にアクチノール乳剤、エコパートフロアブルは効果が高い。



農作物には登録農薬を使用し、使用基準を遵守しましょう！



身支度も
万全にし
てまる！

- ①農薬容器のラベルをよく読み正しく使う
- ②農薬の飛散防止を徹底する
- ③農薬の使用状況を正確に記帳する